

まちのキラリびと

ぜひ六ヶ寺を巡って、
それぞれの歴史や文化を
体験してほしい



▲六ヶ寺の住職（会長は右から2人目）



▲本妙寺での勉強会の様子

かくろくかい 会長（本勝寺住職）
角鹿会

桃井 泰人 さん

日本最古の神宮寺に由来する六ヶ寺が連携してまちの活性化を

角鹿会は、中心市街地を巡るきつかけの一つになればと、氣比神宮寺に由来する六ヶ寺（本勝寺・永賞寺・金前寺・善妙寺・本妙寺・妙顕寺の6つの寺院）と商店街、市民団体、高校生などで昨年11月に設立されました。

神宮寺とは、奈良時代初めごろから、神道と仏教が結びついた「神仏習合」という信仰に基づいて、神社の境内地周辺に建てられた寺院のことで、氣比神宮寺は日本最古といわれております。

昔からそれぞれの寺院では、地域の学校や診療所としての役割も担っており、この六ヶ寺でも茶道や華道などを教えていた歴史があります。

そこで、この歴史やつながりを生かして敦賀を訪れる方に、6つの寺院を巡り、体験し、さらには、商店街や他の観光拠点を回ってもらい、いわば周遊の足掛かりを作っていききたいと考えています。

まずは六ヶ寺の歴史や文化を知ってもらうための勉強会を開催したところですが、今後、御朱印帳や寺院マップの作成、体験イベントの企画などを進めていくため、3つの部会を立ち上げ、活動を本格化していきます。

北陸新幹線の敦賀開業も控える中、敦賀の知られざる歴史をまちづくりを活かすため、集まった縁を大事にして、前進していきたいと思えます。

まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



案内人
学芸員 藤田裕介

隠れた魅力を
発見してみましょう

▼石油箱の整理に用いた数字



基本情報

種別：登録有形文化財（建造物）
【平成21年（2009）1月8日】
年代：明治38年（1905）頃
所在地：金ヶ崎町



旧紐育スタンダード石油会社倉庫
北棟・南棟・れんが塀

敦賀港の国際性を物語る 赤レンガ倉庫

南棟南面に「紐育スタンダード石油会社」の文字が見えるこの赤レンガ倉庫は、ニューヨークスタンダード石油会社が敦賀港で石油の直輸入を行うため、明治38年に建てた倉庫です。平成21年に北棟・南棟と建物を囲うれんが塀が登録有形文化財に登録され、現在は、敦賀赤レンガ倉庫として、北棟がジオラマ館、南棟がレストラン館として活用されています。

この倉庫は、それぞれ桁行35m、梁間15mほどの規模を有しており、福井県下最大規模のれんが造建物とされています。内部は柱の内側に壁を設けることで内壁を平らにしており、大量の石油箱を保管できるように工夫が凝らされています。

現在、内部の構造はほとんど見ることはできませんが、南棟の出入口上部には、白色で数字が書かれており、敦賀港から陸揚げした石油箱を順番に整理していたとみられる痕跡を確認することができます。

旧紐育スタンダード石油会社倉庫は、赤レンガ倉庫の名でよく知られている建物ですが、未だ文化財としての魅力が隠されています。今一度、赤レンガ倉庫を訪れてみてはいかがでしょうか。

広報担当者の つぶやき

今回、「昆布を使ったメニューの試食会」取材しました。敦賀は、昆布の加工量全国一ですが、昆布はだしを取るものという印象を持たれがち。しかし、披露された創作料理では、どれも昆布の存在感が光っていました。試食会のレシピ帖が市内飲食店などで配布されていますので、是非おうちでも作ってみてください。(K)

16頁の「上を向いて歩こうプロジェクト」では、アンプレラスカイの設置作業だけでなく、募金活動や色塗り作業の様子も取材へ行きました。写真を掲載できなかったのが残念ですが、生徒たちが考えて自主的に行動する姿がとても印象的でした。ぜひ一度オルパークに足を運んでみてください。(M)